

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600649	事業の開始年月日	平成15年12月1日	
		指定年月日	平成15年12月1日	
法人名	株式会社 ライフコミュニケーション			
事業所名	ライフコミュニケーション泉			
所在地	(〒245-0016)			
	神奈川県横浜市泉区和泉町3285-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営理念の「リーダーシップは、入居者である」に基づき、一人ひとりの「個性」[尊厳]「生命」を守り、活力ある生活を支え、寄り添うようなケアを目指しています。そして、入居者様を中心であるといった理念から「御家族様と一緒に楽しんで頂くこと」を大切にしております。いつでも、御家族様が気軽ににお越し頂けるように、温かいおもてなしを心がけています。また、運営推進会議が開催されるようになってから、地域の方との交流も深まり、家庭菜園を手伝って頂き、収穫を迎えると、御家族様とカレーパーティーや納涼祭を毎年行っています。また、「敬老会」「クリスマス会」などの催事にも、ボランティアの方に出演していただく等、温かく見守って頂いていることを感謝しています。 今後も、入居者様やご家族様が、安心できる温かいグループホーム作りを目指していききたいと思っております。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月26日	評価機関 評価決定日	平成22年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所概要】 このグループホームは、相鉄線「いずみ中央」駅から徒歩10分ほどの丘陵地にある。周囲は閑静な住宅街である。すぐ近所には同法人の有料老人ホームがあり、職員同士は研修や行事などで日頃からの交流、連携が強い。 建物は茶色のレンガ風外壁の3階建てで、玄関前は広々として開放感がある。ユニット玄関を入るとすぐ手前に、I・H器具付きのアイランド型キッチンが設置されている。この配置により、職員は台所仕事をしながらリビングにいる利用者の様子が見渡せ、会話を一緒に楽しめる。リビングは南向きで採光がよい。洗面、トイレなどの共用空間は十分な広さがあり、清潔に保たれている。 【温かいおもてなしの実践】 職員は事業所開設時に掲げられた理念から、「入居者を中心にするという事は入居者の大切な家族、知人も同じように大切に。」という方針で、来訪者にも「温かいおもてなし」を常に心がけ実践している。利用者や来訪者の心が和むようにとの心遣いから、主玄関、ユニット入り口をはじめ、洗面所やテーブルなどの共用空間、また居室にも利用者と散歩の時に摘んできた季節の草花などが多く飾られている。食事やおやつの際に使われる食器類は、料理が引き立つように様々な色や形の小鉢に盛り付け、皆で楽しめるよう配慮されている。また利用者も来訪者を歓迎する方が多く、訪問調査時は積極的に迎え入れてくれた。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフコミュニケーション泉
ユニット名	泉ユニット1

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、理念に基づいてケアを行うように心がけている。理念として、入居者様の1人ひとりの個性や尊厳が守られ寄り添うようなケアを行うよう努めている。	事業所理念は各ユニット玄関に掲示し、職員には入職時のオリエンテーションで具体的に説明している。また毎月の職員会議で、日頃の業務や利用者への対応に理念が活かしているかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にまでは、いかないが、夏祭りやイベントなどには参加するように心がけ、交流を持つようにしている。	事業所では民生委員の協力により家庭菜園で取れた野菜で収穫祭などを開催し、地域の方を招いている。毎月クラスのボランティアが来訪するほか、職員の知人の児童が敬老会などの行事の際にピアノ演奏に訪れてくれる。	以前開催された介護者教室を今後も定期的に行なう事や、小・中学校の体験学習を受け入れるなど、さらに幅広い世代を含めた地域との交流関係を築くことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、介護者教室などを行い地域の方に、認知症について少しでも理解して頂けるように働きかけたりしていましたが、最近は少なくなったように思う為、今後はもう少し積極的に行きたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1度の割合で開催しており、施設の運営状況を報告している。会議では、地域住民代表の方に、アドバイスを頂いて日頃のケアに活かしている。	地域住民、家族代表、区の担当者などのメンバーによる運営推進会議が定期的で開催されている。近隣住民のグループホームへの理解も深まり、地域の行事を教えてもらう事で外出の機会が増えた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議発足をきっかけに、市町村担当者と接する機会が増え、疑問点などが気軽に聞けるようになった。また、運営推進会議にも出席して頂き、アドバイスをしてもらっている。	担当者とは顔なじみになり、窓口で介護保険の手続きなど、ささいな疑問点でも気軽に相談できるようになった。事業所の現状を伝えたり、パンフレットを置いてもらい居室の空き情報を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や全体会議にて拘束について話をする機会を設け正しく理解してもらうように努めている。また、鍵をかけない代わりに鈴などで無断外出などの事故を予防するように努めている。	利用者の状況確認を1時間ごとに行い、印鑑を押して記録している。利用者の様子には気を配り、外出したがついている時は無理に止めない、さりげなく一緒について行くなどして、安全に気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でも力をいれているが、全体会議や研修などで高齢者虐待について学ぶ機会を作っている。職員ひとり1人が理解し、日頃から、意識することが、大切だと周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会を持つようになっているが、実際に後見人の方と話をする機会がないため、理解しにくいと思われる。管理者は、対応する事があるため、職員に研修で話すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず、重要説明書を読み、解りやすく説明しているが、不十分な所がないかどうか、確認しながら行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族懇談会を行っており、意見や要望などを聞く機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置し自由に記入できるようにしている。	行事に合わせて約3ヶ月毎に家族会を開催し、約半数の家族が参加している。職員は面会時など普段から家族との会話にも気を配り、意見はもちろん、家族との会話の中から日常業務での改善点に気付いた場合は、職員間で話し合い、迅速な対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長会議、全体会議を行い、運営に関する意見などを聞く機会を設けている。また、代表は、施設巡回を行い、現場職員の意見を把握することに努めている。	事業所には、何事にも固定観念にとらわれず自分とは違う意見も柔軟に取り入れるという体制があり、職員が気軽に意見を言える雰囲気がある。食事時間や業務の流れなどが職員からの提案で改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、施設巡回を重視し、職員や管理者の勤務状態をを把握し必要に応じ、ヒヤリングを行うなど、現場の様子を把握し、勤務条件の整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修を積極的に、行うように、現場に指導している。また、法人では、ヘルパー2級講座などを開講しており、働きながら、資格取得が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市や神奈川県ของกลุ่มホーム協会に入会しており、協会の主催する研修などに参加し、情報交換や交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、アセスメントに行き状態を把握すると共に、困っていること、要望などを聞き、安心してサービスを受けられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談する中で、今までの状況や困っている事や要望などを聞き、安心していただけるように努めている。また、困ったことがあれば、いつでも相談して欲しいことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を把握し、状況に応じた適切な支援を行うように努めている。また、場合によっては、他のサービス機関に連絡をとるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力をできる限り、活かし生活の中でお花を飾ってもらったり洗濯たみなどを手伝ってもらい、共に生活していく環境をつくるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お正月など、自宅に帰宅できる場合は、出来るだけ可能になるように支援し、家族と本人の意向に沿うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関って来られた関係が、途切れないように支援している。旧友の方や親戚の方からの電話がかかってくる時があるが取りついでいる。はがきのやりとりなども支援している。	正月や盆休みなどに、親戚や大学時代の友人の来訪がある。利用者の以前からのつながりから、ボランティアに来てくれる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の中にも、気の合う人合わない人はいらっしゃると思われるが、職員が把握し、状況に応じ関るようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀はがきを出したり、退居後の様子をご家族に連絡をし、様子を伺うなど連絡を取っている。また、入院している場合は、面会に行くようにしている。退居後も家族様からの連絡もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いや希望を言葉で表す事が困難な方であっても、顔の表情や今の辛い事をくみ取り、一人ひとりの把握に努めている。	意思表示が困難な方については、その時々表情、特に目の動きからその方の意向や思いを把握することに努めている。CDをかけた時に手足でリズムを取るなど、ささいな反応から曲の好みを知ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や個人の意見を尊重するように努めている。家族からの情報や本人からの情報を収集し、サービス提供に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活習慣などを把握し、状態観察に努めている。日々の排泄や食事などのチェック表により、心身状態などの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などを行い、ケアの見直し、話し合いの場を持つようにしている。	個別担当制で1～2ヶ月毎にモニタリングを行っている。職員全員でユニット会議を開き、家族や訪問診療時の医師の意見を取り入れながら、計画の見直しや課題の検討をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する方法として、朝の申し送りや業務日報などで確認して介護記録に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様のニーズに応じて訪問診療や訪問歯科診療、訪問美容など柔軟にサービスを取り入れるように工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力も得られ、家庭菜園の方法などを教えていただき、一緒に草花を育てている。入居者様も楽しみにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院などがあるが、本人の希望やご家族様の希望をお聞きして、受診先を決めている。	現在は本人や家族の希望により、全員が法人の協力医をかかりつけ医としている。内科と歯科の訪問診療が週に1回あり、口腔ケア記録は医師から家族に送付されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護は入っていませんが、法人内に勤務している為、相談などがいつでも可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関してだけでなく、受診する際でも協力して頂いている。認知症の方は、入院などを断わられてしまう事が多い中で、相談に応じていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と面談し主治医の指示の元、施設で可能な限りケアを行うようにしているが、看護師が常駐していない為、ご家族との連絡を大切にしている。	現状ではターミナルケアは難しく、重度化した場合には協力医療機関での対応になる事を、入居契約時に家族や本人に説明し承諾を得ている。利用者が重度化した場合は、家族や本人の意向をもとに職員間でも情報を共有し、できるかぎりホームでの生活が継続できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法など消防署にて研修があった場合は出席している。内部研修にて報告し、情報を共有している。また、緊急マニュアルがあり、参考にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常用の食材、備品は常備している。災害に関しては、自治会の訓練に参加している。現在、自治会にて協力できる体制を構築中である。	法人の方針として年4回の自主訓練のほか、消防署立ち会いの下では年2回、災害・避難訓練を行っている。利用者には実際にリュックを背負って避難訓練に参加してもらった。各居室に避難経路図が掲示されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについては、十分に注意している。トイレに行く時や排便などの時も、声かけには注意するように、心がけている。特に言葉遣いには気配りが大切であると周知している。	日頃から職員は、親しみをこめた対応と馴れ馴れしさは違うことや、プライバシーに留意すること、介護のプロとしての接遇を心がけることを確認し合い、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向や要望などを伺うようにして自己決定を促すようにしている。献立と一緒に立てたり、衣服の選択など、自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて個別ケアを行うように心がけている。食事の時間が、個人によって遅くなることもあるが、ゆっくりと個人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ理美容にて、きれいにしているが髪型などは、本人の意見を尊重している。衣類も自由に選んで着ていただくようにしているが、汚れている場合は、随時取り替えるように促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者様の好きなものを聞いて作ったり、時々、出前を頼んで楽しんでもらっている。準備や片付けは出来る範囲で手伝ってもらおうようにしている。	料理に合わせた小鉢や食器を使い、料理の盛り付け方も彩りよく、見た目にも配慮されている。家庭菜園で収穫された野菜が献立に取り入れられ、職員は入居者と共に季節感のある食事を楽しんでいた。入居者は下膳、食器拭きなど各自のできる事を行っていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量などのチェック表を作成し、1人1人を把握している。また、1日分のトータル量なども記入している。水分は、好みの物をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、毎食後行っている。義歯洗浄も行い、口臭に注意している。必要に応じ訪問歯科診療を受け清潔保持に注意している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握するよう努めている。自尊心を傷つけないような声かけ、誘導を行うように心がけている。	一人ひとりの習慣や排泄チェック表により排泄のリズムを把握し、声かけ誘導を行っている。各ユニットに2ヶ所あるトイレの1つは「お客様用トイレ」と掲示して女性専用にし、男性とタイミングが重なる時の羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を出来るだけ服用せず食事やおやつなどにヨーグルトや乳製品を付け、便秘解消に努めている。また、運動なども体操やお腹のマッサージをするようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日については、日曜日以外は毎日入浴できる体制をとっている。日曜日には、ご家族様の面会が多い為ご家族様との時間に当てて頂いている。	ほとんどの利用者は希望により、週2～3回のペースで午後に入浴している。入浴したがる方には無理強いせず、その日の様子をみて対応している。日曜日に入浴することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠出来る様に、生活のリズムを整えたり、日中も個別に休息の必要な方には、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表などにて確認するようにしている。また、処方内容をファイルしてあり、いつでも見て確認出来るようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみを持ち、生活の張りを持つるように努めている。レクリエーションやイベントなどで楽しむことが出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の牧場や、家庭菜園の草花を取りに行ったり、その日の気分で行きたいが、体調の状態などを考慮して行うようにしている。	要介護度の高い方が多く、普段はテラスなどでの外気浴や近所の散歩をしている。地域の方から教えてもらい、車でクリスマスイルミネーションを見に行ったり、こいのぼりやどんと焼きなどの地域行事に出かけている。	家族や地域ボランティアの方にも協力をお願いし、外出できる機会を今以上に多く増やせるよう、今後の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、法人で立替すると言うことが決められているが、外出した際お金の支払いなど、職員と一緒にするよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が、家族へ電話したいと希望があれば、対応している。また、本人宛の手紙が届いた場合は、お礼の電話をかけるなど、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安らげる空間作りを心がけている。カレンダーなども自然の風景画のものを飾るようにしている。また、観葉植物や花を置くなど落ち着いた雰囲気を中心にしている。	玄関、テーブル、洗面所などには心和むよう、季節の草花や観葉植物が置かれている。職員による手作りのタペストリー風カレンダーや、イベント時の写真などにより温かみのある室内装飾がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りに、いつでも自由に座れるように、椅子を設置しており、フロアを歩きながら、疲れたら休憩出来る様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使い慣れた身の回りの物があれば持参して頂く様にしており、家族様から送って来られた写真なども飾り、できるだけ、今までの環境と同じ様に設置するよう努めている。	法人の有料老人ホームから移ってくる方が多いため、環境の変化や家族が新しいものを揃える負担を考慮し、カーテン・ベットなどを移る前の法人施設と同じように揃えている。自宅から馴染みの家具やベットを持ち込んでいる方もいる。趣味のものを飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、また居室などの表示をわかりやすく、工夫している（絵や表札など）出来るだけ安心して、活動出来る様に支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600649	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	(株) ライフコミュニケーション		
事業所名	ライフコミュニケーション泉		
所在地	(245-0016) 横浜市泉区和泉町3285-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営理念の「リーダーシップは、入居者である」に基づき、一人ひとりの「個性」[尊厳]「生命」を守り、活力ある生活を支え、寄り添うようなケアを目指しています。そして、入居者様を中心であるといった理念から「御家族様と一緒に楽しんで頂くこと」を大切にしております。いつでも、御家族様が気軽にお越し頂けるように、温かいおもてなしを心がけています。また、運営推進会議が開催されるようになってから、地域の方との交流も深まり、家庭菜園を手伝って頂き、収穫を迎えると、御家族様とカレーパーティーや納涼祭を毎年行っています。また、「敬老会」「クリスマス会」などの催事にも、ボランティアの方に出演していただく等、温かく見守って頂いていることを感謝しています。 今後も、入居者様やご家族様が、安心できる温かいグループホーム作りを目指していきたく思っております。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフコミュニケーション泉
ユニット名	泉ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、理念に基づいてケアを行うように心がけている。理念として、入居者様の1人ひとりの個性や尊厳が守られ寄り添うようなケアを行うよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にまでは、いかないが、夏祭りやイベントなどには参加するように心がけ、交流を持つようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、介護者教室などを行い地域の方に、認知症について少しでも理解して頂けるように働きかけたりしていましたが、最近は少なくなったように思う為、今後はもう少し積極的に行いたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1度の割合で開催しており、施設の運営状況を報告している。会議では、地域住民代表の方に、アドバイスを頂いて日頃のケアに活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運絵推進会議発足をきっかけに、市町村担当者と接する機会が増え、疑問点などが気軽に聞けるようになった。また、運営推進会議にも出席して頂き、アドバイスをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や全体会議にて拘束について話をする機会を設け正しく理解してもらうように努めている。また、鍵をかけない代わりに鈴などで無断外出などの事故を予防するように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でも力をいれているが、全体会議や研修などで高齢者虐待について学ぶ機会を作っている。職員ひとり1人が理解し、日頃から意識することが、大切だと周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会を持つようにしているが、実際に後見人の方と話をする機会がないため、理解しにくいと思われる。管理者は、対応する事があるため、職員に研修で話すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず、重要説明書を読み、解りやすく説明しているが、不十分な所がないかどうか、確認しながら行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族懇談会を行っており、意見や要望などを聞く機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置し自由に記入できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長会議、全体会議を行い、運営に関する意見などを聞く機会を設けている。また、代表は、施設巡回を行い、現場職員の意見を把握することに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、施設巡回を重視し、職員や管理者の勤務状態を把握し必要に応じ、ヒヤリングを行うなど、現場の様子を把握し、勤務条件の整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修を積極的に、行うように、現場に指導している。また、法人では、ヘルパー2級講座などを開講しており、働きながら、資格取得が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市や神奈川県ของกลุ่มホーム協会に入会しており、協会の主催する研修などに参加し、情報交換や交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、アセスメントに行き状態を把握すると共に、困っていること、要望などを聞き、安心してサービスを受けられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談する中で、今までの状況や困っている事や要望などを聞き、安心していただけるように努めている。また、困ったことがあれば、いつでも相談して欲しいことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を把握し、状況に応じた適切な支援を行うように努めている。また、場合によっては、他のサービス機関に連絡をとるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力をできる限り、活かし生活の中でお花を飾ってもらったり洗濯たみなどを手伝ってもらい、共に生活していく環境をつくるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お正月など、自宅に帰宅できる場合は、出来るだけ可能になるように支援し、家族と本人の意向に沿うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関って来られた関係が、途切れないように支援している。旧友の方や親戚の方からの電話がかかってくる時があるが取りついでいる。はがきのやりとりなども支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の中にも、気の合う人合わない人はいらっしゃると思われるが、職員が把握し、状況に応じ関るようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀はがきを出したり、退居後の様子をご家族に連絡をし、様子を伺うなど連絡を取っている。また、入院している場合は、面会に行くようにしている。退居後も家族様からの連絡もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いや希望を言葉で表す事が困難な方であっても、顔の表情や今の辛い事をくみ取り、一人ひとりの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や個人の意見を尊重するように努めている。家族からの情報や本人からの情報を収集し、サービス提供に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活習慣などを把握し、状態観察に努めている。日々の排泄や食事などのチェック表により、心身状態などの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などを行い、ケアの見直し、話し合いの場を持つようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する方法として、朝の申し送りや業務日報などで確認して介護記録に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様のニーズに応じて訪問診療や訪問歯科診療、訪問美容など柔軟にサービスを取り入れるように工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力も得られ、家庭菜園の方法などを教えていただき、一緒に草花を育てている。入居者様も楽しみにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院などがあるが、本人の希望やご家族様の希望をお聞きして、受診先を決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護は入っていませんが、法人内に勤務している為、相談などがいつでも可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関してだけでなく、受診する際でも協力して頂いる。認知症の方は、入院などを断わられてしまう事が多い中で、相談に応じていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と面談し主治医の指示の元、施設で可能な限りケアを行うようにしているが、看護師が常駐していない為、ご家族との連絡を大切にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法など消防署にて研修があった場合は出席している。内部研修にて報告し、情報を共有している。また、緊急マニュアルがあり、参考になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常用の食材、備品は常備している。災害に関しては、自治会の訓練に参加している。現在、自治会にて協力できる体制を構築中である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについては、十分に注意している。トイレに行く時や排便などの時も、声かけには注意するように、心がけている。特に言葉遣いには気配りが大切であると周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向や要望などを伺うようにして自己決定を促すようにしている。献立を一緒に立てたり、衣服の選択など、自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせ個別ケアを行うように心がけている。食事の時間が、個人によって遅くなることもあるが、ゆっくりと個人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ理美容にて、きれいにしているが髪型などは、本人の意見を尊重している。衣類も自由に選んで着ていただくようにしているが、汚れている場合は、随時取り替えるように促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者様の好きなものを聞いて作ったり、時々、出前を頼んで楽しんでもらっている。準備や片付けは出来る範囲で手伝ってもらおうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量などのチェック表を作成し、1人1人を把握している。また、1日分のトータル量なども記入している。水分は、好みの物をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、毎食後行っている。義歯洗浄も行い、口臭に注意している。必要に応じ訪問歯科診療を受け清潔保持に注意している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握するよう努めている。自尊心を傷つけないような声かけ、誘導を行うように心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を出来るだけ服用せず食事やおやつなどにヨーグルトや乳製品を付け、便秘解消に努めている。また、運動なども体操やお腹のマッサージをするようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日については、日曜日以外は毎日入浴できる体制をとっている。日曜日は、ご家族様の面会が多い為ご家族様との時間に当てて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠出来る様に、生活のリズムを整えたり、日中も個別に休息の必要な方には、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表などにて確認するようにしている。また、処方内容をファイルしており、いつでも見て確認出来るようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみを持ち、生活の張りを持てるように努めている。レクリエーションやイベントなどで楽しむことが出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の牧場や、家庭菜園の草花を取りに行ったり、その日の気分で行けるようにしたいが、体調の状態などを考慮して行うようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、法人で立替すると言うことが決められているが、外出した際お金の支払いなど、職員と一緒にするよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が、家族へ電話したいと希望があれば、対応している。また、本人宛の手紙が届いた場合は、お礼の電話をかけるなど、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安らげる空間作りを心がけている。カレンダーなども自然の風景画のものを飾るようにしている。また、観葉植物や花を置くなど落ち着いた雰囲気をつくる工夫を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りに、いつでも自由に座れるように、椅子を設置しており、フロアを歩きながら、疲れたら休憩出来る様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使い慣れた身の回りの物があれば持参して頂く様にしており、家族様から送って来られた写真なども飾り、できるだけ、今までの環境と同じ様に設置するよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、また居室などの表示をわかりやすく、工夫している（絵や表札など）出来るだけ安心して、活動出来る様に支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ライフコミュニケーション泉

作成日 22年4月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流が少ない。	近隣の幼稚園児や小学校との交流を図る。	1、幼稚園や小学校に出向き交流をもつ機会を願います。	6ヶ月位
2	49	日常的な外出支援あまり出来ていない。	介護度の重度の方も外出する機会をもう少し、作るようにする。	1、ボランティアの方やご家族の方と一緒に出かける機会をもつ。	6ヶ月位
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。